

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

●岐阜県森林文化アカデミー特別招聘教授末松広行氏による講演会を開催しました

令和4年10月11日（火）、岐阜県森林文化アカデミーにおいて、県森林文化アカデミー特別招聘教授の末松広行氏を講師にお迎えし、「脱炭素時代の森林・林業地域～持続可能な社会の実現に向けて～」と題してご講演いただきました。

<主な講演内容>

- ・「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、森林・林業の果たすべき役割は極めて高い。
- ・脱炭素は世界共通の課題であり、気候変動対応は経済成長のエンジンとなりうる。
- ・木質バイオマス発電は、地球温暖化の防止のほか、森林・林業地域の活性化に寄与。
- ・法制度の整備などにより、公共・非公共建築物の木造化・木質化が大きく進展。
- ・二酸化炭素の吸収源としての森林の価値を活かすことが必要。

講演会では、出席者から多くの質問が寄せられるなど、脱炭素に対する関心の高さが伺えました。

今後も様々な講演会を企画してまいりますので、講師、講演内容に対する希望等がありましたら事務局までお知らせください。



末松広行氏による講演



講演会の状況(アカデミー情報センター)

●コウヨウザンの活用に関する試験・研究に取り組んでいます（経過報告）

コウヨウザンやセンダンなど早生樹は成長が早く、20～30年での木材利用が見込まれるとともに、下刈りなど保育作業の省力化につながることから、新たな造林樹種として注目されています。当コンソーシアムでも、岐阜県と共同で平成30年度からコウヨウザンやセンダンの植栽試験に取り組んでいます。

一方で、県内では成長したコウヨウザンやセンダンの確保が難しくなったことから、県産材の早生樹に関する試験・研究は行われていません。

こうした中、郡上市入間地内の神社のコウヨウザン（樹齢74年、



神社のコウヨウザン

胸高直径66cm、樹高27.6m)を所有者のご厚意により当コンソーシアムに譲っていただいたことから、森林研究所、生活技術研究所そして飛騨産業(株)と連携して、その活用に関する試験・研究に取り組むこととしました。

令和4年10月13日(木)、郡上森林組合の協力でコウヨウザンを伐採し、6玉(長さ2.5m~3.5m)確保しました。木口からは、ヒノキのような独特な強い芳香がしたほか、仮道管付近から白く粘着性のあるマツヤニのような成分が滲み出すことを確認しました。

なお、枝葉については、飛騨産業(株)が成分を抽出・分析するとともに、森林総合研究所で遺伝子解析を行うこととしています。

早速、玉切りしたコウヨウザンを森林研究所へ運搬し、柾目木取りで板に製材しました。特に違和感はなく、スギと同じ感覚で製材することができました。

しかし、製材断面には髄から放射状に伸びる「休眠芽」と思われるシミが多数発生していました。見た目だけの問題か、強度に影響があるのかなどについては今後研究していく必要があります。

製材後、1.3トンの荷重をかけ比較用のスギとともに乾燥(50~60℃、177時間、含水率8%以下)させました。仕上がりを確認したところ、コウヨウザンの材色は全体的に白色で辺材と心材の色合いの差はほとんどなく、乾燥前にあった独特の芳香は弱まっていました。反りや曲がりとはほとんどなく、長さ、幅、厚さの収縮率はいずれもスギを下回っていました。



乾燥後のコウヨウザン(中央)



ヤニ滲み

しかし、今回のコウヨウザンの表面には「休眠芽」と思われるシミのほか、茶色のヤニ滲みが発生しており、全てのコウヨウザンにこのような欠点が発生すれば、製材品として活用にあたっての課題となりそうです。

今後、コウヨウザンの板材は生活技術研究所で家具に加工されます。年度末までには完成する予定ですので、その結果については改めて本紙面でご紹介したいと思います。

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局(岐阜県立森林文化アカデミー内)
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.conso@forest.ac.jp



コウヨウザンの木口



断面の「休眠芽」